
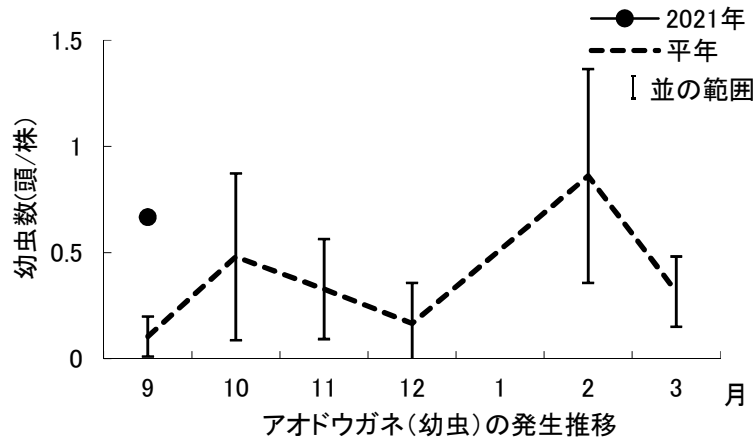


作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	① アオドウガネ			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	多		
予報	9 月からの増減傾向	↗		
	10 月の発生量 (平年比)	多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


今期と平年の推移



・発生ほ場率 : 33.3% (平年値 : 27.8%)

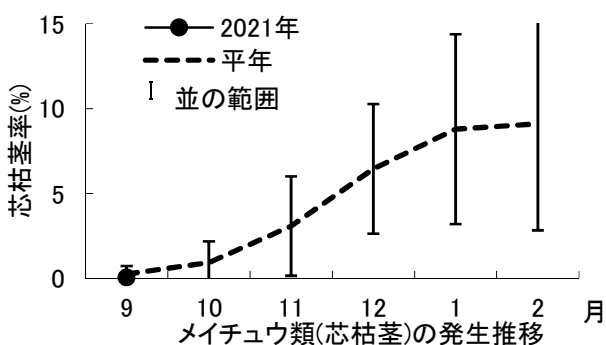
防除のポイント

- ・夏植え前にロータリー等で碎土を行う。
- ・若齢幼虫を防除するため、培土時に粒剤を処理する。

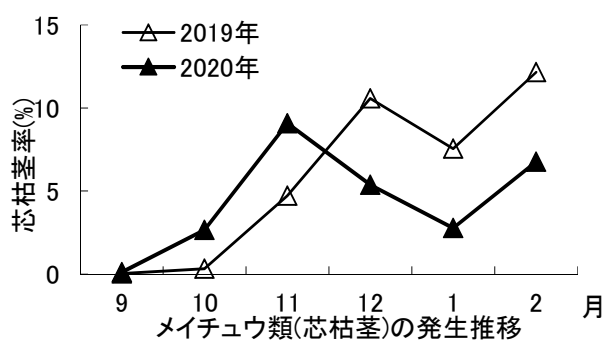
作物	さとうきび	地域	宮古群島	
病害虫名	② メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)			並
予報	9 月からの増減傾向			↗
		10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

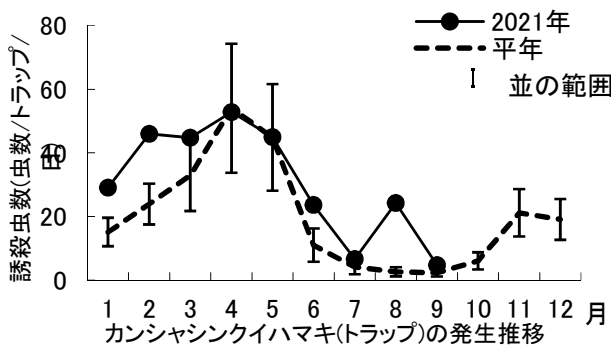
今期と平年の推移



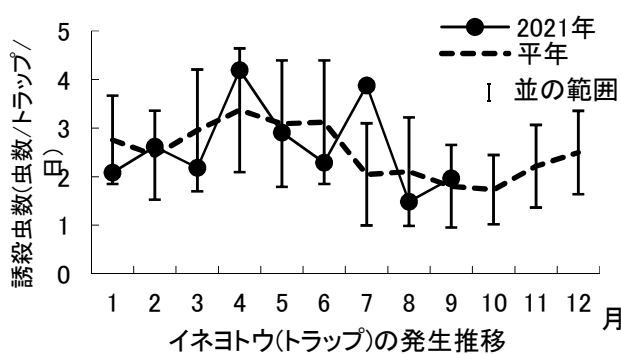
過去 2 年の推移



トラップ調査 (カンシャシクイハマキ)




トラップ調査 (イネヨトウ)



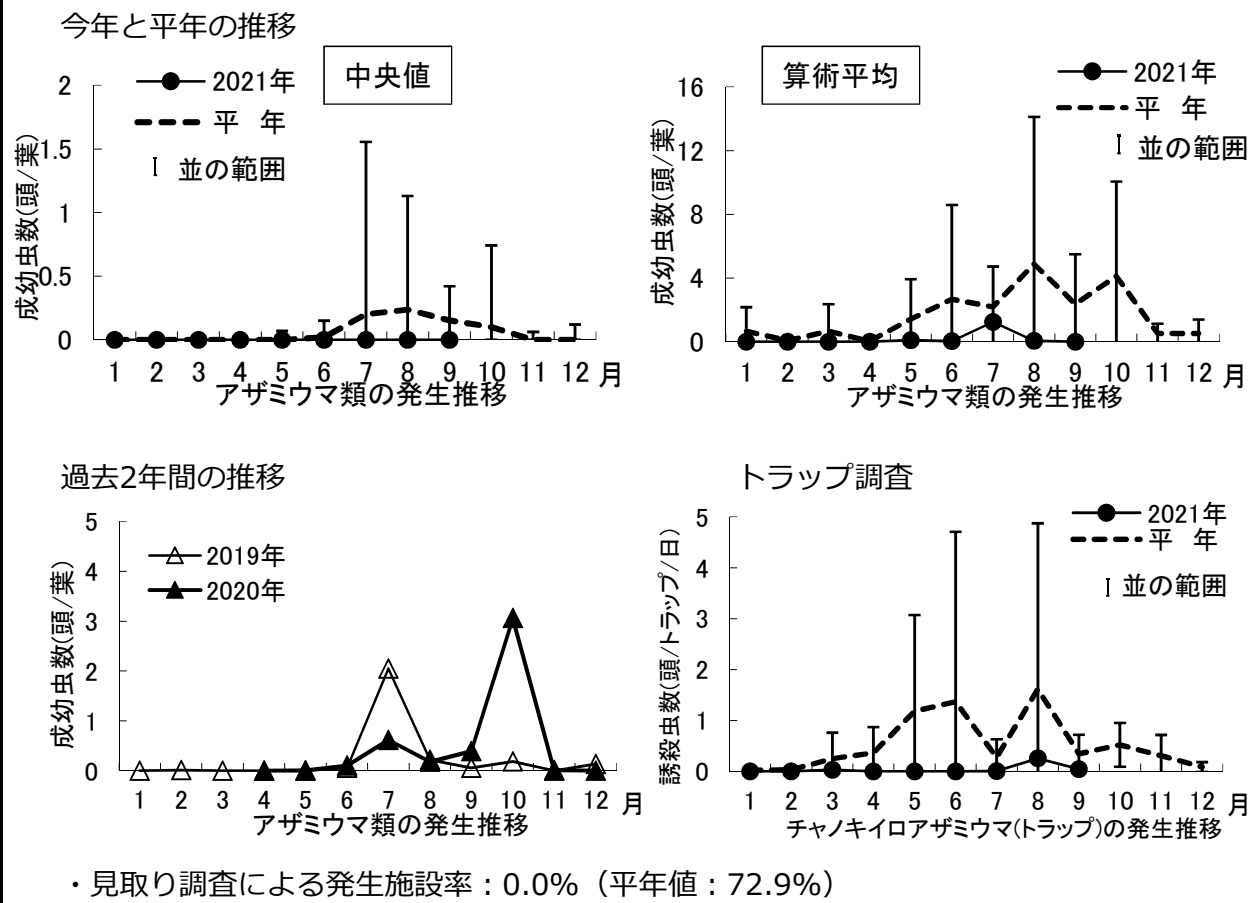
・ 芯枯れ発生ほ場率 : 15.0% (平年値 : 22.2%)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果




防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

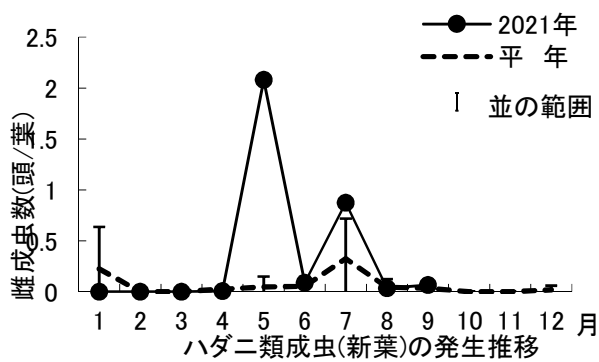
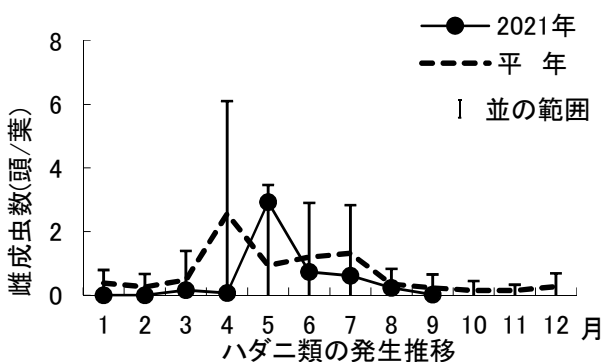


ナガエコミカンソウ

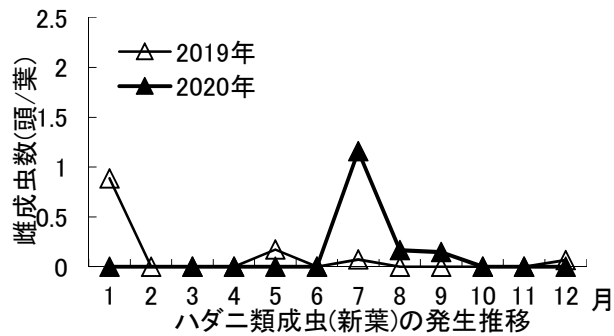
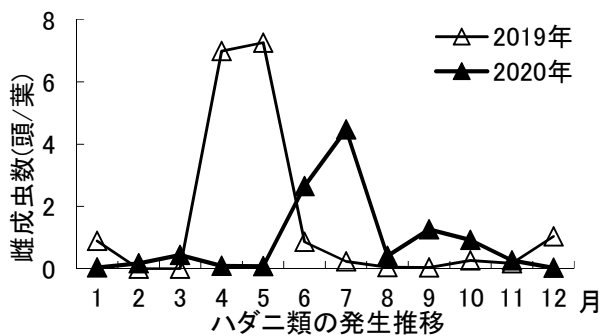
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	② ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↓	
		10 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率：20.0% (平年値：20.0%)

防除のポイント

- ・晩秋にかけて発生が多くなるので、発生ほ場では早期発見・防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症